

カンムリウミスズメ

チドリ目ウミスズメ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

Synthliboramphus wumizusume (Temminck)

国カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

県内での繁殖地は七ツ島に限られている。同所は本種の我が国での繁殖北限でもある。

形態

全長約24cm。ウズラ大の小型の海鳥で、頭部には短い冠羽がある。頭部と体上面は黒色、首、胸、下面は白色。

国内分布

九州沿岸、四国太平洋岸、紀伊半島南部、伊豆諸島などに分布、繁殖が確認されている。

県内分布

輪島市七ツ島の大島、御厨島、荒三子島で繁殖が確認されているが、非繁殖期の生息状況は不明。近年、大島と御厨島では繁殖の形跡がなく、繁殖地は荒三子島のみと推測されている。

生態

潜水して小魚、甲殻類などを捕る。3月下旬から4月上旬、岩の割れ目やくぼみに1~2卵を産み、雌雄交代で約1月抱卵する。孵化したヒナは1~2日後親鳥に連れられて巣を離れ、海に出る。

生息地の条件

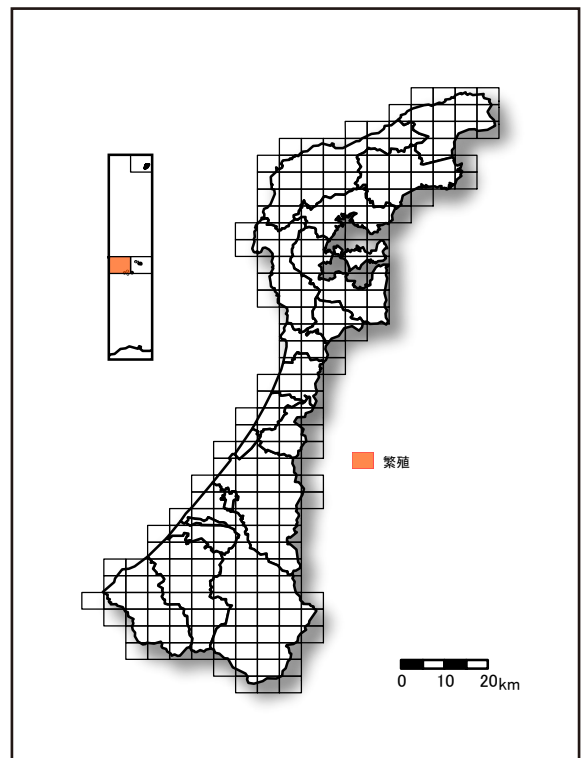
捕食者となるヘビ、哺乳類のいない岩礁、無人島。

生存の危機

ドブネズミの侵入による被補食、刺し網等による混獲。(A, C)

特記事項

国指定天然記念物。日本での推定個体数は5000~6000羽。県内では荒三子島に数十羽と推測されるが、最近捕食者(おそらくドブネズミ)による被害が深刻である。早急な対策が望まれる。



県内の分布